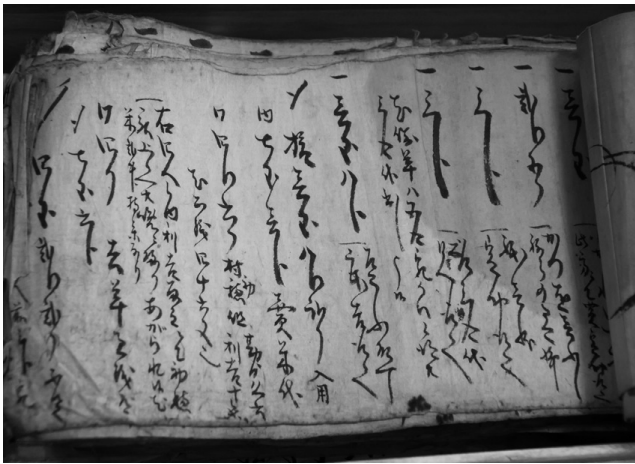


今年の家内安全、集落の繁栄を祈る

安原自治会、下黒坂自治会で「総日待」



安原自治会には200年以上前の総日待の記録も



下黒坂自治会で行われた総日待の様子

正月に行う行事「総日待」が、1月18日、安原地内で行われ、今年の家内安全・招福を祈りました。

この日は、氏子年番の日待ち宿である瀬田和人さん宅に、多くの地区住民が集合。安井神社の長谷部信博宮司が神事を行い、今年一年の家内安全と集落の繁栄を祈願しました。

安原地区には「お日待ち張」という古くから続く記録張があり、その年の出来事などについて、今も記録され続けています。その中には、文化7年（1810年）と、2000年以上昔の記録もあり、文字だけでなく、ところどころ人や馬などの絵も添えられています。参加者の中には、「歴史をひも解こうと思っても、昔の文字が読めない。誰か読める人がいるといいけど」と残念がる人も。

長谷部宮司によると「総日待は経済的な面で考えられたもの。個々では大変なので、安井（現・安原）の里人が集団で行うことで、少ない経費で信仰できるようにしたものです」とのことでした。

また、1月17日には、下黒坂自治会でも「総日待（宅神祭）」が開かれました。下黒坂の各家庭では、この日に供えられた御洗米、祝餅を、家内安全、無病息災を願う家族全員で食べる習わしが続いています。

家族の無病息災、地域のきずなを深める

黒坂地区コミュニティ推進協議会主催でとんどさん



火を囲い親睦を深める

一年の無病息災を願う地域行事、とんどさんが、1月11日、黒坂地区コミュニティ推進協議会（中原明会長）主催で開かれました。

当日は、会場となった黒坂小学校の校庭に、黒坂地区などから多くの人が正月飾りや書き初めなどを持って集まりました。

校庭の中央に立てられた約20杯の竹を囲んで地域の住民や子どもによる火入れが行われ、参加者は燃え盛る炎に家内安全や無病息災などを祈っていました。

1年の無事願う厄流し

菅福地区伝統奇習行事「ホトホト」



勢いよく水をかけ、1年の無事をみんなで祈願

みのかさ姿のホトホト役に水をかけて厄を払う、菅福地区の伝統奇習行事「ホトホト」（里山元氣塾主催）が、2月6日に行われました。

これは、厄年を迎える人の家庭に、神の使い「ホトホト」が、お札やわらの馬、しめ縄などの縁起物を持って訪れ、家の人から祝儀の品を受け取って帰るところに水をかけると厄が落ちるといわれるもので、古くから菅福地区に伝わる伝統行事です。

今年は、2件の家庭で行われ、「ほとほと〜、ほとほと〜」と言って訪れたホトホト役の男性らに、家族などが総出で水をかけ厄を落としました。



地域を元気にしてくれてありがとう

日野高校生徒へ日野町長感謝状授与式



感謝状を受け取る陸上部主将の北崎虎雅さん

「これからも日野町をPRしていきたい」と生徒の皆さん

今年度、さまざまな活動を通して地域とかかわり、地域を元気にしてくれた日野高校の生徒に感謝状を贈ろうと、1月20日、役場で日野高校生徒への感謝状授与式が行われました。

贈られたのは、西村風香さん（貝原）、佐野莉子さん（根雨）、日野高校陸上競技部の3組。西村さんは、昨年の11月に豪華寝台列車「トワイライトエクスプレス」が根雨駅に停車した際に、乗客へプレゼントした日野町産海藻米の商品ラベルをデザインし、町特産品の情報発信に貢献したこと。佐野さんは、公民館まつりなど町内の各種イベントにボランティアとして参加し、イベントの運営などに積極的にかかわったこと。そして、日野高校陸上競技部は、昨年6月に地域住民を対象に健康ストレッチ講座を開催し、広報ひのでも健康ストレッチを紹介するなど、町民の健康増進に貢献したことが、それぞれたたえられたものです。

佐野さんは「感謝状をもらうれしい。ボランティアなど参加してみると楽しい。ぜひ、後輩にも参加してほしい」と笑顔で話し、後輩へメッセージを送りました。

学習の成果に温かい拍手

日野高等学校 第14回定期演奏会



息の合った歌声で会場を魅了

日野高校で音楽を学ぶ音楽系列の生徒が学習成果を発表する定期演奏会が、1月22日、町文化センターで開催されました。

演奏会は、生徒が日ごろの授業の中で身に付けた音楽技術、表現力などを発表する1年間の締めくくりの場として開かれています。当日は、日野高校の全校生徒のほか、生徒の家族や町内外から多くの人が来場しました。

生徒は、ピアノやヴァイオリンなどの独奏、ソプラノやテノール独唱を発表しました。合唱では「アメージング・グレイス」など6曲を教員と一緒に披露。美しいハーモニーと旋律が響き渡ると、会場からは大きな拍手が送られていました。

まちの貴重な文化財をいつまでも

町歴史民俗資料館で防火訓練



いざという時のために消火方法を再確認

「文化財防火デー」の1月26日、町歴史民俗資料館で、消火設備の点検、消火器を使った消火訓練などが行われました。

訓練には、資料館を管理・運営する日野町歴史民俗資料館友の会（池原和夫会長）、町教育委員会、江府消防署の関係者が参加。池原さんは、「毎年訓練を実施し、消火器の使い方や消火設備の再確認を行っている。これからもみなんで力を合わせ、大切なまちの宝を守っていきたい」と意識を新たにしていました。